


# 指導資料

# 国語 第141号

 鹿児島県総合教育センター  
平成30年4月発行

対象  
校種

中学校 義務教育学校  
特別支援学校

## 中学校国語科における「読むこと」の授業改善 — 「共有」に関する指導を中心に —

学習指導要領の改訂に伴い新設された中学校国語科の「共有」の指導事項を手掛かりにして、これから求められる「読むこと」の授業改善の方向性を具体的に示す。

また、全ての領域に設けられた指導事項「考えの形成」と「共有」の関連を明確にし、生徒の思考力・判断力・表現力を高める「読むこと」の授業改善の実践例を紹介する。

### 1 「考えの形成」と「共有」に関する指導

グローバル化や多文化共生の社会を迎え、人工知能の飛躍的発展に伴い、自分の考えを形成する力とともに他者との合意形成を図る力の育成が未来社会を生きる児童生徒に必要とされている。国語科の学習において、実生活に生きて働く確かな国語の能力を確実に身に付けさせるため、「考えの形成」を図る指導の充実が今後一層求められている。

このことは、平成29年3月に公示された新学習指導要領国語科において、育成すべき「思考力・判断力・表現力等」のA「話すこと・聞くこと」、B「書くこと」、C「読むこと」の全ての領域に「考えの形成」と「共有」の指導事項が新設されたことに端的に表れている。例えば、各学年のB「書くこと」の「共有」とC「読むこと」の「考えの形成と共有」の内容は、次のとおり指導することになっている。

書くこと	第1学年	第2学年	第3学年
共有	オ 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。	オ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。	オ 論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。
読むこと			
考えの形成 共有	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする事。	オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。	エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりし人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

これは、国語科の指導改善に何を求めているのだろうか。新学習指導要領国語科の目標にも明記されているように、国語科は、言語

活動を通して資質・能力（国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力）を育成する教科である。したがって、これまで同様国語

科の学習指導は、具体的な言語活動を通して行うことは変わらない。しかし、国語科で育成すべき資質・能力を発揮させるためには、

全ての領域で「考えの形成」と「共有」の指導が不可欠であることを明確に示していると考えることができる。

## 2 「考えの形成」を促す学習過程と「共有」の指導

国語科の学習で、目的意識を持たせずに、ただ文章を「読ませっぱなし」の状態にして

いても質の高い「考えの形成」を図ることはできない。そこで、「考えの形成」を促す学習過程を踏まえた授業改善を提案する。

### 第1段階 内容を精査・解釈し、感想や意見を生徒一人一人にもたせる段階

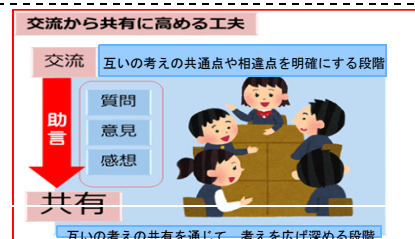
文章の内容を精査・解釈して自分が一番心に残ったことや、疑問に思ったことなど自分の考えを支える「思ったこと」「感じたこと」「考えたこと」（感想や意見）を生徒一人一人にもたせる段階。考えのベースとなる「自分の立場」「題材」やそれを支える「根拠」や「理由」などの情報を整理させることが大切である。

### 第2段階 場を設定し、「考えの形成」を促すために活動させる段階（目的を明確にした言語活動）

「考えの形成」を図る場の設定として、言語活動を効果的に活用する必要がある。「考えの形成」と関連の深い、例えば、提案や主張、意見や討論などねらいに応じて、創意工夫し、生徒に目的意識を持たせる言語活動が生徒の考えの形成を促し、表現させる。その際、学年段階に応じ感想や意見を述べるための計画的な語彙指導が大切である。

### 第3段階 交流を「共有」に高め、「考えの形成」を質的に高める段階

形成した考え（感想や意見）は、他者との交流を通して、自分の考えを深めたり広げたり、集団で一つの考えを創り出したりさせて共有を図る段階。交流を「共有」に高めるためには、互いの考えを交流しながら質問したり、感想や意見を述べ合ったりする「助言」の機能を有効に働かせることが大切である。



### 第4段階 「考えの形成・共有」の的確な評価を通じて、次時の学習につなぐ段階


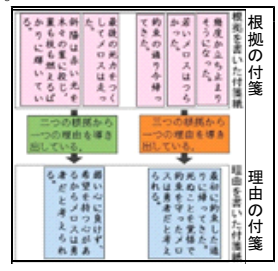

小集団や学級で共有を図った生徒一人一人の考え又は集団で形成した考えのよさを指導者が的確に把握して、評価する段階。生徒が形成した考えや集団で合意形成した考えに表れた固有の見方や考え方やよさを見付けて、その点を的確に評価して、学習の成果を実感させることが大切である。「読むこと」の指導における「考えの形成・共有」の学習で生徒に自信を持たせ、意欲を喚起させれば全ての領域で「考えの形成・共有」の学習につなぐことができる。

上記の4段階の指導過程は、単元全体を通じて行うものであり、単元の指導計画を作成する際に、指導者はどの段階のどの指導を重点にするかを明確に意識することが大切である。また、各段階はもちろん固定的に捉える

必要はない。生徒の実態や課題に応じて前の段階や次の段階を入れ替えたり、繰り返したりして指導するなど、指導の成果を上げるよう柔軟に組み立てることが大切である。次に、具体的な実践例を紹介したい。

### 3 「考えの形成」と「共有」を位置付けた「読むこと」の実践例

- (1) 単元名 『走れメロス』を読んで、人間の生き方や考え方に対する自分の考えを深め、意見文「私の勇者論」を書こう。
- (2) 教材名 「走れメロス」（全8時間）『中学生の国語一年』三省堂
- (3) 単元の目標
  - ・ 「走れメロス」に感想をもち、自分の知識や体験と比べたり、意見交流を積極的に行ったりすることができる。（興味・関心）
  - ・ 心情の描写、登場人物の言動の意味などについて自分の考えを持つことができる。（C 読むことイ）
  - ・ 文章に表れている、メロスのもの見方や考え方について知識や体験を基にして評価をし、勇者像について自分の考えをもつことができる。（C 読むことエ）
- (4) 本時の実際（5 / 8）

過程	主な学習活動	指導上の留意点（考えの形成と共有を促す工夫）				
導入	1 学習課題を確認し学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">メロスは勇者と言えるだろうか</div> 2 課題に対する自分の考えを形成する。 3 小集団や全体で互いの考えを共有する。 	<b>「考えの形成」を促す工夫 ①</b> ☆ 複数選択制の課題を設定することにより、生徒個々の多様な解釈や判断を生み出し、共有の必然性を高める。また、単元の言語活動「私の勇者論を書く」ためという目的意識を明確にさせた上で考えの形成を促す。 <b>「考えの形成」を促す工夫 ②</b> ※1 ☆ 「思考ツール」と付箋紙を使用したことで、思考の整理を促し、根拠と理由等を明確に区別し、それらを関連付けながら自分の考えをもたせる。  <b>「共有」を促す工夫 ①</b> ・ 小集団や全体での交流を共有に高めるため、生徒相互の「助言」を促すため「交流の手引」を活用して助言のポイントを意識させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <b>助言の手引</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 分からないことを聞き返す。 何？</li> <li>② 理由を尋ねる。 なぜ？ どうして？</li> <li>③ 具体例を聞く。 例え？</li> <li>④ 相手の考えを言い換える。 つまり</li> <li>⑤ 共感・評価する。 確かに…</li> </ol>  </div>				
展開	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">助言のポイントを活用した共有の様子</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                         S1 私だったら、こう（「死をおそれずに」という付箋紙）になったら、戻るの怖いと思うのですが、あなたならどう思いますか？                          S2 <b>でも</b>、メロスは自分で死ぬの覚悟の上で約束したよ。約束して守らないというのは、勇者とは言えないんじゃないかな？                          S4 <b>私も</b>、そう思う。                          S1 <b>確かに</b>そうだね、でも、<b>もし</b>自分（S2）なら、同じことができますか？                          S2 …まあ…約束していたら…                          S1 <b>じゃあ</b>、<b>もし</b>、友達を人質にしていなかったら、戻る？                          S2 …迷う…                          S4 <b>どうして？</b>                          S2 何にもないのに、命を捨てるのは…                          S3 <b>そうだね</b>、自分一人だったら、私は無理かも…                          S1 <b>つまり</b>…、死を恐れずに立ち向かえるということは、勇者と言えるんじゃないかな？                          S2 <b>確かに</b>…そうだね。                     </div>	<b>「共有」を促す工夫 ②</b> ・ 共有を通して広がったり、深まったりした考えを表現させ、自分の考えがどのように変容したかを、振り返ることができるようにして、学習の成果を実感させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         生徒が表現した「私の勇者論」                     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">理由</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="font-size: small; vertical-align: top;">                             この勇気は、王に對して、怖い、いやしい正義のためなら死んでもいいと思う気持ちがあるのは、勇者じゃないと思う。私には死にたくなくて、正義を、つらげないから。                         </td> <td style="font-size: small; vertical-align: top;">                             私が考える勇者は、正義感が強く、正直で、悪にも立ち向かう勇気がある人だ。                         </td> </tr> </tbody> </table> </div>	理由	根拠	この勇気は、王に對して、怖い、いやしい正義のためなら死んでもいいと思う気持ちがあるのは、勇者じゃないと思う。私には死にたくなくて、正義を、つらげないから。	私が考える勇者は、正義感が強く、正直で、悪にも立ち向かう勇気がある人だ。
理由	根拠					
この勇気は、王に對して、怖い、いやしい正義のためなら死んでもいいと思う気持ちがあるのは、勇者じゃないと思う。私には死にたくなくて、正義を、つらげないから。	私が考える勇者は、正義感が強く、正直で、悪にも立ち向かう勇気がある人だ。					
終末	5 学習のまとめを行う。 ※1 本時で使った「思考ツール」とは、上段に根拠、下段に理由の付箋を整理させ、思考過程を構造化したワークシート ※2 「交流の手引」とは、小集団で交流させる際に、助言の仕方やルールを分かりやすく示した学習活動を支援するシート					



#### 4 情報の視覚化と考えの「共有」化を図る板書の工夫



図1 板書例（中心人物を中心に、他の人物との相関関係を整理した板書）

「読むこと」の指導において内容を精査・解釈し、考えの形成の基になる感想や意見を生徒一人一人にもたせる第1段階から互いの考えの「共有」化を図る第3段階の各過程で大切なことは、「自分の立場」や一人一人の考えを支える「根拠」や「理由」等の情報を整理して、形成した考えを明確にすることである。図1は、学習課題「中心人物と他の人物との関係を整理し、気付いたことを自分でまとめる」を解決するために、人物の相関関係を視覚的に示した板書である。このような構造的な板書を通して、生徒が気付いたことを学級全体で「共有」化することは、生徒にとって多様な情報を整理することや考えの形成につながるとともに、「共有」化を図った互いの「考え」の振り返りにも有効である。このように情報を視覚化し、考えの「共有」化を図るために板書を構造化する取組は、教師が補助的に作成するワークシートの工夫や生徒の思考を促すノート指導にもつながる。

#### 5 考えの変容を導く「共有」の指導の充実

この項では、新学習指導要領国語科において、全ての領域に「考えの形成」と「共有」の二つの指導事項がセットで新設されたことの意図を明確にしておきたい。ここから国語科で育成すべき資質・能力の中核に「考えを

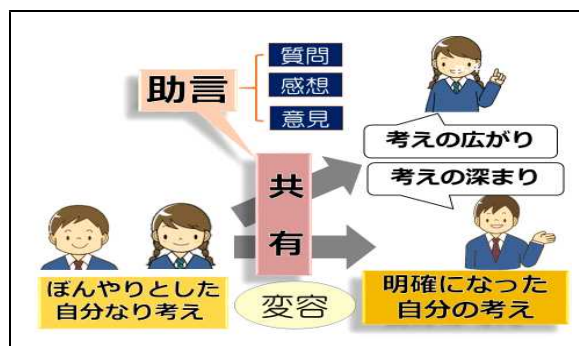


図2 考えの変容を導く「共有」の機能

形成する力」を位置付けたこととともに「共有」を図らない「考えの形成」の指導がないことを明確にしたことが分かる。また、「共有」の指導は、従前の「交流」に関する指導を発展させた内容であると捉えることができる。国語科の指導では、図2に示すとおり「共有」の指導に助言（質問・感想・意見）を位置付け、考えの広がりや深まりの変容を目指した指導の充実を求めているのである。新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「共有」に関する指導を中心に、今後、中学校国語科の授業改善が一層進むことを期待している。

—引用・参考文献—

- 文部科学省『中学校学習指導要領解説国語編』平成29年
- 鹿児島県総合教育センター 『指導資料1868号(国語第135号)』平成28年4月

(企画課 小野 修)

